

4. 外国語学研究科

【現状説明】

(1) 理念と目的

本研究科の博士前期課程は、外国語を核に、言語・文学・文化・歴史を幅広く理解し、国際社会の中で活躍できる人材の育成を目指す。

博士後期課程においては、高度の専門知識と自立した研究能力を有する、教育、研究ビジネスの各分野において活躍できる人材を育成する。

(2) 各専攻の教育目標

英語英文学専攻の博士前期課程においては英米文学、英米言語のより深い研究を行い、修士論文の作成を通して高度化した言語能力を生かしてビジネス、教育界の要請にこたえうる人材を育成すると同時に博士後期課程に進学するために十分な専門的知識を有する人材を育てる。

同後期課程においては博士論文の作成指導を行う指導教員のもとで英米文学、英米言語への造詣を深め、教育者としての高度な専門的知識を涵養した、また研究者として十分な資質を有する人材を養成する。

中国言語文化専攻の博士前期課程においては中国言語、中国歴史文化をより深く研究し、フィールドワークや修士論文の作成を通じて向上した言語能力を生かせるビジネスに人材を供給する。また博士前期課程において深めた研究をもとに博士後期課程での研究を継続する人材の育成にも尽力する。

同後期課程においては、中国の言語、歴史、文化の各分野において、高度の専門的知識とその運用能力、さらには研究能力を身につけた、ビジネス界および大学等の高等教育機関において活躍しうる人材を育てる。

(3) 周知の方法と有効性

本研究科の理念及び目的、それらを基にした各専攻における人材育成等の目的は、本研究科開設以来十数年を経過した現在においても基本的には変わるものではない。これら本研究科、各専攻の理念・目的・教育目標などは、毎年4月に開かれるオリエンテーション、大学院履修要覧、各授業を通じて大学院生に周知を図っており、少人数であるため大学院生の理解は十分に得られている。

対外的には、『学校法人神奈川大学総合案内』、本学ホームページ、大学院案内、言語学の啓蒙の専門雑誌である『言語』（大修館）に広告を掲載し、その周知に努めている。

【点検・評価】

全般的に言って、人文系の大学院の卒業生に対する需要は、全国的な大学院の定員拡大に呼応して増加しているわけではない。従って、本研究科の理念と目的の実現は、定員数を確保するという量的な面で困難に直面している。この困難な状況下で、

第一に、本研究科の理念と目標そのものが時代の要請に適合しているか点検し、大幅に見直すことが早急に必要である。

第二に、今後留学生の受入数の増大を視野に入れるならば、海外に向かっての周知が必要であり、この点を軸に大幅に改善する必要がある。

【改善方策】

現実の社会の要請に応え、優れた人材を養成するために、現在、研究科委員会の諮問機関として外国語学研究科将来構想委員会を設置し、すでに5回の委員会開催を経て、2010

年には英語英文学専攻に代わって国際言語文化専攻（仮称）のもとに4コースを設置し、社会の多様な要請にこたえて、有為な人材を生み出す制度を設置する手続きに入っている。理念と目標の抜本的な見直しがすでに軌道に乗り始めたと言うことができる。新たなコース制度とカリキュラムが確定し、動き始めた時点で、新たな理念などについて、周知の方法についても新たに検討する。

英語英文学専攻においては博士前期課程・後期課程を通して英米文学中心の研究と英米言語中心の研究を柱として教育研究を進めてきた。中国言語文化専攻では同じく博士前期課程・後期課程を通して中国言語学研究と中国歴史文化研究を中心とした研究教育を行った。どちらの専攻もおかれた社会的状況と教育環境のもとで専攻分野の研究水準の高度化および研究者の養成の点で一定の成果を生み出している。

早急に海外向けに、多言語のホームページとパンフレットを作成し、本研究科の理念の周知を図る。